

令和 5 年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検評価

日南町教育委員会（令和 6 年 6 月 5 日審議決定）

『教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価』は、平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）」の一部改正により、新たに「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」ことが法第26条第1項に規定されたことに基づき、令和5年度における日南町教育委員会の事務の管理及び執行状況について、点検・評価し、その結果をとりまとめるものである。

日南町教育委員会は、『令和5年度 日南町教育の目標』を定め、これに基づき、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価することによって、課題や取り組みの方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進を図るものである。

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検評価

評価	点 検 ・ 評 価 基 準	達成率目安
A	期待以上の成果・効果を得た。	90％以上
B	目標・目的をおおむね達成（計画どおり推進）した。	70％程度
C	取り組みがやや遅れた。（成果・効果が現れにくかった。）	50％程度
D	取り組みの大幅な見直し・廃止が必要である。	30％以下

I 学校教育、幼児教育

1 ふるさとを愛し、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成

(1) ふるさとを生かした体験的な教育の展開

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①日南町に愛着と誇りを持った人材を育てていくため、自然・伝統・文化等の優れた地域資源を活用した「ふるさと教育」を進める。特に、「木育」・「日南学」等の推進を図り、教材化の充実も進める。	・小1から中3まで全学年で地域人材、地域資源を活用した「ふるさとキャリア教育」の計画的な実施	B	B	・「日南学」を1年間行ってみて、カリキュラムの見直しや園小中の取り組みの相互確認を進めている。 ○多くのサポーター、ボランティアの方にかかわってもらい、充実した活動を行うことができた。 ▲カリキュラムの見直しが1年間では、終わらなかった。令和6年度も引き続き行う。
②自然体験や文化的な活動など種々の協同の活動や遊びを通して多様な経験を保障する。	・自然体験や「本物に触れる」体験等の実施	B	B	・中学校で日南神楽、小学校でオオサンショウウオの学習、こども園でアユのつかみ取りなど行った。 ○自然体験や文化的な活動を積極的に取り入れ、体験活動を充実することができた。 ▲系統性を確認し、園小中でねらいのすりあわせを行う必要がある。

③日南町で生活・活動する人々と関わりながら、園、学校、家庭、地域が連携した教育活動及び保育を展開する。	・地域人材、地域産業等を活かした体験学習の実施	B	B	・中学校での「先輩に学ぶ」、小学校での「リンゴ栽培」、こども園での「シイタケ収穫」など地域の多くの方が参加された。 ○地域の方の話を聞いたり、地元の産業の一端を体験したりすることによって、子どもたちの地域に対する視野を広げることができた。 ▲活動のねらいをはっきりさせるために、事前の打ち合わせを入念に行う必要がある。
---	-------------------------	---	---	---

(2) 学習の基礎・基本の定着、基本的生活習慣の定着				
目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①家庭との連携を深め、学習習慣や基本的生活習慣の定着を図る。	・ i-Check による「学習習慣」に関する肯定的回答（全国平均）	C	C B	・ 日々の指導や家庭学習がんばるウィークの実施、保健指導等により、好ましい学習習慣や生活習慣作りを目指している。 ・ i-Checkによる生活・学習習慣に関する肯定的回答 学習習慣 全国平均と同等以上4学年（小1、2、5、中1） 生活習慣 全国平均と同等以上1学年（小3） 授業以外での運動習慣 全国平均と同等以上5学年（小1、2、4、6、中1） ○授業以外での運動習慣は小学校で定着している。 ▲望ましい生活習慣、中学校の学習習慣の定着は、引き続き大きな課題である。学校での子どもたちへの指導に加え、保護者への情報提供や啓発によって実態や目標を保護者と共有し、家庭との協力で改善を図ることが必要である。
②衛生や運動、食事や生活リズムなどの基本的な生活習慣に関する実践的な態度を育て、生涯にわたって健康な生活を送るための基礎を養う。	・ i-Check による「生活習慣」に関する肯定的回答（全国平均）	C		
	・ i-Check による「授業以外での運動習慣」に関する回答（週2日以上割合の全国平均）			

③保育教諭・教職員が子どもの学びや育ちを支えるための系統性や指導の手立てを具現化し、指導力の向上を目指した研修を奨励する。	・校（園）内研修や授業研究会の計画的実施	B	B	・小中学校ですべての指導者が、公開授業を行うことができた。 ・大学から講師を招き、授業改善を進めることができた。 ・新宿せいがこども園の視察ができた。 ○各校で計画的に研究推進が図られている。 ▲園小中の授業づくりについて、検討・共通実践ができなかった。
	・教職員の外部研修への積極的参加	B		

(3) 豊かな人間性と社会性の育成				
目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①人と人との関わり、ルールやマナーを重視した保育と学習、そして生活を展開し、コミュニケーション能力、社会的規範意識や道徳的判断力を備えた子どもを育成する。	・ i-Check による社会性（思いを伝える力）に関する肯定的回答（全国平均）	A	B	・園や学校は、学習や日常生活、行事等を通して、社会性や道徳性の育成に取り組んでいる。 ・ i-Checkによる社会性に関する肯定的回答 社会性（発信力） 全国平均と同程度以上8学年（小1、小2、小3、小4、小5、小6、中1、中2） 社会性（規範意識） 全国平均と同程度以上6学年（小1、小3、小4、小5、中1、中2） ○コミュニケーション力の育成を意識した取り組みの成果が現れている。 ▲規範意識が高まる取り組みが必要である。
	・ i-Check による社会性（規範意識）に関する肯定的回答（全国平均）	B		
②道徳教育や人権教育（保育）の充実を図り、他者への理解や思いやりの心など豊かな心と道徳的实践力を育成する。	・ 道徳や人権教育の年間指導計画に沿った実施	B	B	・道徳や人権教育は年間指導計画に基づいて指導が実施されている。 ・ i-Checkによる「親切・思いやり」に関する肯定的回答 全国平均と同程度以上5学年（小1、小2、小3、小4、中1） ○道徳の授業づくりの工夫や人権教育の確実な実施
	・ i-Check による「親切・思いやり」に関する肯定的回答（全国平均）	B		

				が図られている。 ▲児童生徒の道徳性をさらに高めるため、全教育活動における横断的な取り組みが必要である。
③海外派遣事業や国際交流事業、小中学校における外国語活動や英語科等を通して、グローバル社会で生き抜く人材の育成を図り、国際感覚とコミュニケーション能力を培う。	・海外派遣事業や国際交流事業（交流学习）の実施	A	A	・シアトル派遣では16人を派遣することができた。 ・7月にシアトルの中学生と日南の小学生、中学生が交流することができた。 ・中学校はシアトルとオンライン交流を行った。 ○海外派遣に向けて、1月より週1回英会話教室を行い、コミュニケーション力を高めることができた。 ○7月の交流では、授業時間だけでなく、休憩時間も一緒に活動する姿が見えた。 ○活発なオンライン交流ができた。
④キャリア教育の充実を図り、自らの進路や職業について展望を持って意欲的に生活する児童生徒を育成する。	・ふるさとキャリア教育の計画的な実施	B	B	・各学年の指導計画の見直しと、それに沿った学習活動が実施されている。 ・i-Checkによる「夢や目標を持っている」という項目の肯定的回答 全国平均と同程度以上3学年（小2、小3、小4） ○キャリアパスポートの作成、小中学校におけるふるさとキャリア教育の年間指導計画の見直し等が実施された。
	・i-Checkによる「夢や目標を持っている」という項目の肯定的回答（全国平均）	C		▲将来の夢や目標を具体的に考える機会を作るなど、ふるさとキャリア教育の充実を図る必要がある。

2 園・小・中の連携による教育と学力向上の推進

（1）園・小・中の連携による教育の推進

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①園児・児童・生徒の学びの意欲と確かな学力を着実に高めていくために、園・小・中一貫教育ビジョンに基づいた継続性、系統性、一貫性のある保育と教育の実践と充実を図る。	・園小合同研修会、小中合同研修会の実施（年３～５回）	A	B	・園小中合同研修会３回開催 ・学校評価アンケート（自己効力感、協同学習についての質問項目）の肯定的回答 小学校平均８０％ 中学校７０％ ○育てたい力を校内に掲示するなどして全職員が共有し、園・小・中一貫教育ビジョンにもとづいた教育活動を行った。 ▲取り組みを継続したり、さらに強化したりしていくことにより、定着させる必要がある。
	・保護者アンケートによる肯定的回答（８０％）	B		
	・継続性、系統性、一貫性のある教育活動の実施	B		
②学年や校種を越えた集団的な活動を行う中で、自分の成長過程と将来的見通しを実感できる生活や学習活動を展開する。	・異学年活動や園・小・中の交流活動の実施	B	B	・こども園の異年齢交流、小学校のPSP（パーフェクト・スクール・プロジェクト）、中学校の体育祭や文化祭など多くの活動に取り組んだ。 ○園・小・中の交流活動が盛んに行われた。 ○小学校のPSPなど児童生徒が自主的・主体的に活動することができた。
	・児童会・生徒会活動、学校行事等における児童生徒の自主的・主体的活動の実践	B		
③読み聞かせや読書活動等を継続的に取り入れ、豊かな心や創造力等の育成に努める。	・こども園や小学校における読み聞かせ等の実施（５回以上／年）	A	A	・学校支援ボランティアによる読み聞かせは、小学校で１１回、中学校で８回実施された。 ・朝読書は、小中学校ともにほぼ毎日実施された。 ・各こども園では、司書による読み聞かせを月１回実施している。 ○読み聞かせや図書館ボランティアのおかげで、子どもが図書館に行く頻度等も増えている。
	・小・中学校における朝読書の実施	A		

（２）学力向上の推進				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）

①学力を支える非認知能力の向上を目指した取り組みを幼児期から一貫して行うことにより、意欲的な学びの態度や学習習慣を身につけさせる。	・ i-Check による「学習習慣」に関する肯定的回答 (全国平均)	C	C	・授業や家庭学習についての指導等、個々の児童生徒の実態に応じて、学習意欲の向上や学習習慣作りに取り組んでいるが、全体的な成果が見えにくい。 - i-Checkによる生活・学習習慣に関する肯定的回答 学習習慣 全国平均と同等以上4学年(小1、2、5、中1) ○中学校でもICTの活用が始まっている。 ▲家庭学習のやり方などを個別で指導する必要がある。
②基礎的な学力を保障するために、指導力向上に向けた研修を積極的に行い、わかる授業の創造、授業法の工夫改善を進める。	・校(園)内研修や授業研究会の計画的実施	B	B	・校内授業研究会は、小学校で6回、中学校で3回実施された。 ・県教育センターの計画する研修には、小学校延べ18名、中学校延べ25名が参加した。 ○各校で計画的に研究推進が図られている。 ○積極的に研修に参加する傾向がみられている。
③児童生徒の学力の現状及び課題を把握 ・分析し、具体的な手立てを講ずるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善やICT活用教育を推進する。	・全国学力・学習状況調査や標準学力調査の結果分析及び対策の実施	B	B	・各校で結果分析を実施し、具体的手立てを検討・実施するとともに、保護者にも周知している。 ・全国学力・学習状況調査の過去問や類似問題を授業の中で活用したり、補充学習を実施したりするなど、授業改善と児童・生徒の課題の克服につなげるよう努めている。 ○学年によっては、標準学力調査でも改善の結果が表れている。 ▲学年による差が大きいため、継続的な取り組みが必要である。
④英検受検やモンゴル日本語教室との交流、海外派遣事業等を通じて、グローバル化に対応した英語教育や異文化理解の推進に努める。	・海外派遣事業や国際交流事業(交流学习)の実施	A	A	・シアトル派遣では16人を派遣することができた。 ・7月にシアトルの中学生と日南の小学生、中学生が交流することができた。 ・中学校はシアトルとオンライン交流を行った。 ・英検の受検結果

	・英検において、中学生の学年相当の級の合格率 60%以上	A	1年（5級以上）14人中12人合格 2年（4級以上）12人中8人合格 3年（3級以上）15人中3人合格 全体合格率 56% ○海外派遣に向けて、1月より週1回英会話教室を行い、コミュニケーション力を高めることができた。 ○7月の交流では、授業時間だけでなく、休憩時間も一緒に活動する姿が見えた。 ○活発なオンライン交流ができた。 ○英検で自分の学年相当以上の級に挑戦する生徒が増えた。
--	--	---	---

（３）乳幼児期からの教育の充実

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
① 基本的生活習慣の定着、子どもの主体性の育成等、園小の教育内容や指導法について共通理解を図り、こども園と小学校の円滑な接続に努める。	・子ども支援連絡会議、園小連携会議、ケース会議等を活用した支援体制の構築	B	B	・情報共有や引継ぎなど各会議とも計画通りに実施され、支援体制の構築につながった。 ・園小連携会議でアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直しを実施し、慣例化して実施することができている。 ○職員連携として、園小中の保育、授業参観を実施し、職員同士の交流の充実につながった。 ▲従来の園小連携は実施できているが、新たに始まった「架け橋期プログラム」への取り組みにつなげていく必要がある。
	・保育要録、支援シートを活用した情報共有と移行支援会議の実施	B		
	・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの活用、実践	A		
②幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」に照らした環境整備や体制づくりを進め、幼児教育の充実に努める。	・園内研修や公開保育、カンファレンスの計画的な実施	B	B	・計画訪問後、保育、教育の振り返りを実施する。 ・日野郡連携で3町の視察研修を実施することで、視野が広がった。 ○今年度は、9名の職員が新宿せいが子ども園を視察し、見守る保育の理解と実践を進める事ができ

				た。 ▲先進園への学びも3年絶ち、来年度に向けては、 学びから日南町の見守る保育の構築に向けて進んでいく必要がある。
--	--	--	--	--

3 家庭・地域と連携した教育の推進

(1) 学校・家庭・地域の連携による子どもの育成				
目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①学校・家庭、地域が一体となって、子どもの学びや育ちを支援する体制環境を確立するとともに、積極的な情報発信に努める。	・学校と地域コーディネーターとの連携・協働	B	B	・地域コーディネーターの配置により、学校と連携を図りながら、CSサポーターの活用を図った。 ○地域コーディネーターにより、幅広くボランティアを募ることができている。様々な方が支援してくださり、子どもたちの学習が充実した。 ○CSサポーターを増やすことができた。 ▲CSサポーター連絡協議会を4回（1回/3ヶ月）開催できなかった。
	・CSサポーター連絡協議会の定期的開催（1回／3ヶ月）	A		
	・町報やHPでの情報発信	B		
②学校運営協議会の充実に努めるとともに、地域コーディネーター・CSサポーターなどによる学校支援活動を効率的、組織的に進める。	・学校運営協議会の開催（年6回以上）	A	B	・学校運営協議会は年8回開催された。 ・町報、CSだよりを発行し、広報活動に努めた。 ・先進地の視察を行い、全国大会にも参加し研鑽を深めた。 ○講演会を2回開催することができた。 ○先進地視察を行うことによって、学校運営協議会の目指す姿を共有できた。 ▲今後、学校と運営協議会が一体となった学校運営の充実が求められる。
	・CSサポーターの計画的活用、支援体制づくり	B		

(2) 保護者研修や家庭教育支援の充実

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①子どもの成長の基盤となる子育てや家庭教育の充実、家庭教育支援チームを中心とした家庭教育支援の充実に努める。	・家庭教育講演会や保護者研修会の実施（年2回） ・家庭教育支援チームによる相談・支援活動の実施	A	A	・講演会のねらいを「親子参加」にすることで、保護者の参加が100%になった。（年4回実施） ・支援員も3名から5名となり、相談事業も出張拠点など保護者のニーズに合わせて実施していく。 ○家庭教育支援チーム「いちい応援隊」を発足し、居場所、家庭訪問、講座など目標を決め活動を実施することができた。 ▲参加者数、利用者数は大きく伸びていないが、利用者を増やす活動ではなく、支援につながる活動を忘れずに計画していく。
②関係機関等と連携した相談活動、支援活動等を行い、必要な支援の実現に努める。	・家庭教育推進員による「共育いちい」の発行やHPによる情報提供と啓発	A	B	・家庭教育推進員を中心に、HP、保護者アプリからの発信、Googleフォームでの相談など、相談しやすい環境を整えていった。 ・機関チームでの協議、チーム全体での協議等、家庭教育支援協議を定期的に実施する事ができた。 ○家庭教育講座を、にちなんっ子クラブ、保護者会、ふるさと祭り等と連携することで、家庭教育支援の啓発につながった。 ○民生委員を家庭教育支援員にお願いすることで、福祉との連携の一步となった。 ▲関係機関との連携の課題はまだ大きく、新しくできるこども若者未来課等と連携していきたい。
	・家庭教育推進員やスクールソーシャルワーカー等が連携した家庭教育支援の実施	B		

4 学校教育を支える教育環境の充実

（１）創意工夫を生かした特色ある学校運営の推進

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①研修や教職員評価・育成制度を積極的に活用し、教職員の資質の向上を図るとともに、授業や学校運営の改善を図る。	・学校自己評価の実施	B	B	・各学校で、児童生徒の実態や教育活動の実施状況等を踏まえた学校自己評価が行われた。 ・教職員評価・育成については、管理職との連携を図りながら実施した。 ○評価結果の公開等、計画的に実施された。 ▲評価結果を改善のための具体的方策につなげる必要がある。
②地域人材の活用や地域との連携等による開かれた活力ある学校づくりを推進する。	・ＣＳサポーターの活用 （延べ人数年５００人以上）	A	A	・こども園、小学校、中学校とも積極的に地域人材の活用を図り、学習活動・体験活動が充実した。 ・ボランティアは年間で延べ５１８名の活用があった。 ・小学校では年間を通して、特別非常勤講師に１年生と５年生がお世話になった。 ・地域コーディネーターを１名配置し、学校と地域をつなぐ役割を担ってもらった。 ○学校の要望に応じて様々な方の支援をいただき、学習が充実した。

（２）安全・安心で質の高い教育環境の整備

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①学校内外の安全確保、危機管理体制の充実を目指した機能的な学校環境を整	・学校危機管理マニュアルの点検と整備	A	A	・各学校で危機管理マニュアルの見直しが行われ、教育委員会に提出された。 ・安全点検については、こども園、小学校、中学校

備する。	・学校の安全点検の徹底と指導（月１回）	A		ともに毎月実施され、遊具については、業者による点検も実施した。 ○児童生徒の安全確保のため、学校と連携しながら施設・設備の管理、修繕を行った。 ▲老朽化等による破損等がある箇所は、安全のために適宜対応していく必要がある。
②ＩＣＴ環境、学校図書館及び教材等の充実に努め、質の高い教育が受けられる教育環境を整備する。	・ＩＣＴ機器等、学習や生活の充実のための施設、設備、教材等の整備	B	B	・iPadやPC等のICT機器の整備・管理を進めている。 ・中学校に新たに英会話AIアプリを導入した。 ・ICT支援員の委託により、研修や授業支援が充実した。 ・学校司書が中心となり、町図書館とも連携を図りながら蔵書の充実に努めた。 ○ICT機器の活用が日常的に行われるようになるなど、活用の推進が図られている。 ○AIアプリの導入により、英語を積極的に学習しようとする生徒が増えた。 ▲中学校では、iPadの持ち帰りなど、より積極的な活用を進める必要がある。
	・司書教諭、学校司書、図書支援ボランティア等が連携した学校図書館の充実	B		

(３) いじめ・不登校等に対する対応強化				
目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用等、迅速な組織対応、子どもの実態に応じた生徒指導を通して、いじめ・不登校などの生徒指導上の諸課題の未然防止、早期対応に向けた取り組みを強化する。	・生徒指導上の諸課題の未然防止、早期対応に向けた取り組みの実施	B	B	・情報交換を密に行い、ケース会議などでは、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーからの情報提供をもとにアセスメントを行うことができた。 ○長期的な目標のもとに児童・生徒の指導方針を検討することができた。 ▲ケースによっては児童・生徒・保護者への対応が遅れることがあった。
	・生徒指導上の諸課題への組織的対応の強化	B		

(4) 特別支援教育及び心の教育の充実と組織・体制づくり

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒が、その種類や程度に応じた教育が受けられるよう特別支援教育支援員の配置等、支援体制の充実と活性化に努める	・子ども支援連絡会議の定期開催（月1回）	B	B	・子ども支援連絡会議は、概ね月1回（年間9回）開催した。 ○各学校で組織的対応が意識され、改善や早期解決に至ったケースもあった。 ▲改善が見られなかったり、問題が長期化したりしているケースもあった。 ▲会議の持ち方を工夫し、より効率的な協議の場になるように工夫する必要がある。
	・個別の支援計画、個別の指導計画及び支援シートの整備・活用	B		
	・就学支援委員会の開催等、適切な就学支援の実施	B		
②高校教育への丁寧な接続と進路指導に努める。	・高校教育の在り方を視野に入れた進路指導の充実	A	A	・中学2、3年生を対象に高校説明会を開催した。 ・中学2年生で高校調べを行い、調べた内容を学年内で共有した。 ・「先輩に学ぶ」で現役高校生の話をリモートで聞いた。 ○卒業生は全員希望した進路先へ進むことができた。 ○在校生は進路先を意識することでき、さらに授業に活気が出てきた。

Ⅱ 社会教育

1 社会教育の充実と生涯学習の推進

(1) 学習の機会・成果発表の場の提供と充実

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①町民誰もが生涯にわたって心豊かに過ごせるよう、町民のニーズに合った学習の場と機会を提供する。	・各機関と連携し、成人層を対象とした生涯学習講座の開催（参加者数 平均20人以上、満足度85%以上）	A	A	・にちなん町民大学 12講座開催 平均参加者数28.0人 満足度 94.50% ・やさしい国語 6回開催 受講生28人 満足度91.0% ・オンライン文化教室 6回開催（3講座各2回）受講生延べ56人 ○町民大学は、後日インターネット配信を行い、（閲覧者数計195人）当日参加できなかった方へも学習機会を提供することができた
	・高齢者を対象とした、自主的運営による「人生学園」の学園運営への支援実施（年間10回開催、新規入園生5人以上）	A		・10回開催（うち町外視察研修1回） ・園生52人（新規入園生7人） ○災害への備えや、特殊詐欺の実態と対策など、日常生活での身近な問題を取り上げて学習を行うと共に注意啓発を行った。また、小物づくりやニュースポーツなどの体験学習を行い、住民の学習意欲の向上を図った。
	・独身者、親世代など広く町民を対象にしたセミナーやイベントなどの婚姻事業の実施	A		・町民対象啓発セミナー 1回 参加者 2人 ・魅力アップセミナー 2回 参加者 17人 ・婚活イベント 2回 参加者 20人 ・結婚相談所登録相談会 2回実施（4人参加） ○継続した取組が実を結び、R5の成婚は1組。 ○相談所登録相談会を年度末に実施。令和6年度に

				新規入会予定あり。新規・継続者をともに相談所のフォローを受けながら、活動を行っており、順調な交際をしている者もいる。
②町民の生きがい、やりがいとなり、町民が活躍できる場が広がることを目指し、学習の成果を発表できる場の提供を継続して行う。	・「にちなん文化展」や常設作品展示コーナーなど作品発表の機会の確保	B	B	・第10回にちなん文化展と併せて、初めて日野郡文化交流展を開催した。 ・常設作品展示コーナーに、文化協会加盟団体の作品を展示した。
	・芸術文化活動への関心の高揚、文化活動人口の底辺拡大と活性化。 (ふる里まつりの出展者・団体 計60以上)	B		・展示出展者 計51組（うち新規出展1組） 来場者 3,170人 ・芸能発表 出場者7組(58人)、観客数200人

(2) 文化施設を活用した文化振興				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①文化芸術活動の拠点である日南町総合文化センターについて、引き続き指定管理者制度を活用して町民目線の文化芸術活動を推進する。	・総合文化センターの施設・設備等を点検し、改修を計画的に実施する	B		・定期の設備点検により、次年度以降の改修を検討した。 ・本年度の改修は未実施。
	・総合文化センター自主事業の実施（年間6公演）	B	B	・竜馬四重奏 345人 ・フッペルピアノコンサート 41人 ・ブラスフォレスト 150人 ・芸術列車 87人 ※YouTube視聴回数 775人 ・にちなん音楽祭 OT0まつり 100人 ▲老朽箇所の修繕及び更新を計画的に進める。
②日南町総合文化センター内の多目的ホー	・指定管理者への委託による適正な運営と管理	B	B	・年間利用者数 21,618人（前年比93.9%）

ル、研修室などを町民の文化芸術活動の場として積極的に利用していただき、活動の活発化を図る。	・団体と文化センターとの結びつきの強化	B		・エントランスの文化協会常設展示により、作品を来場者に見ていただく機会を設けた。 ・芸能発表大会を有観客にて開催。
③総合文化センター野外イベント広場を芝生化し、町民の憩いの場を創出する。	・民間団体等と連携した芝生化事業の実施	A	A	・施工前にインターロッキングを一般向けに譲渡し、工事費の低減に努めた。 ・芝生の定植には200人のボランティアが参加。 ・芝生広場お披露目イベント 1,000人

(3) 生涯学習を行う文化団体、個人の支援				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①活力ある文化団体等支援助成金等により生涯学習を行う団体や個人を支援し、町民の自主的な活動の活性化を図る。	・町や各地域における各種行事、取組に対する支援及び情報交換、連携	A	A	・特色ある地域活動補助金を6地域に交付した。 ・町民大学やまなびや縁側の特別事業においてまち（むら）協議会と連携した事業を行った。
②地域の生涯学習の拠点である各まち（むら）づくり協議会との連携をさらに深める。	・地域での主体的な学習・活動に対する協力や支援	A		
③社会教育委員の研修を充実し、資質の向上を図る。	・研修会の開催（年1回以上） ・委員の社会教育事業への参画	A	A	・委員研修（町教委主催3回、県主催2回） ○県教委より講師を招き研修を行い、委員の役割への理解と知識を深めた。町内の社会教育関連施設視察研修を行い、現状と課題の把握を行った。 ・にちなんっ子クラブへの参画

2 青少年の育成・家庭教育の充実

(1) 「ふるさと教育」の推進

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①「日南学」を通して、日南町に誇りと愛着を持ち、将来の地域の担い手となるような人材の育成に努める。	・日野郡3町で行う「ふるさと教育」の推進	A	A	・日南拠点 入塾者 22人 ○塾生と地域住民が共に活動する事業を実施。 ○地域のイベントに塾生が企画・運営をした出店を出店し、地域住民との交流を行った。 ○中学校での郷土学習に補助員として関わり、ふるさと教育の推進を進めた。
②青少年が地域で活躍できる場づくりに努める。	・西部圏域における青少年事業への町内在住者の参加、交流	A	A	・西部地区社会教育担当者研究協議会の主催による「リーダー合宿（大山・2泊3日）が4年ぶりに開催され、本町からも8名の児童が参加した。
④ まなびや縁側の運営の充実に努める。	・公設塾「まなびや縁側」の充実と塾生の確保（中高校生の入塾者20人以上）	A	A	・看護系の進学を希望する塾生が、進路実現に向け日南病院で3日間の職場実習を行った。 ○3町連携事業等を通じ、自己啓発やコミュニケーション力の向上につなげた。 ▲塾生の利用が特定の曜日に偏り、日常的な活動の場としての機能を果たせていない。

(2) 体験活動の機会を提供

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①地域や地域人材、団体による連携の中で、活動の楽しさやふるさとの良さに気づけるような体験活動を実施する。	・ 様々な地域人材と協力した体験活動の実施	B	B	・ 地域住民を講師に迎え講座を実施。 ・ にちなんっ子クラブ 実施数15講座、参加者数延べ312人 ○県指定天然記念物サクラソウ現地見学会を開催し、地域の宝について学習する機会を設けた。
	・ 長期休業中の子ども体験活動の実施	B		

3 文化財、郷土芸能の保護と伝承

（1）文化財、遺跡の調査ならびに保護

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①郷土の歴史的史料の収集・保存に努めるとともに、郷土資料館の所蔵品をはじめとする史料の整理を進める。 ②町の有形・無形文化財や遺跡についての調査や保護に努め、町民への啓発活動を行う。	・ 遺跡地図の情報更新と公開	B	B	○新発見の遺跡を追加し、遺跡地図を更新した。 ○オオサンショウウオの生息調査を実施し、生息状況の実態把握に努めた。 ○発掘調査を実施し、埋蔵文化財保護に努めた。 ○下谷中山鉄山跡の現地説明会を開催し、調査結果の周知と文化財保護への啓発に努めた。（参加者：2日間45人）
	・ 住民への情報提供、啓発の実施	A		

(2) 郷土資料館の資料を活用した町民への郷土史、文化財の周知と理解促進

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①所蔵資料の独自調査、研究を進めるとともに、その成果を町民に広く周知し、郷土の歴史に対する関心を高める。	・ 講座等の開催による郷土の歴史への興味関心と調査意欲の喚起	B	A	○小学校と連携しオオサンショウウオについての学習で講義を行い興味関心の喚起を行った。 ○林業アカデミーとの連携により、中学生を対象にした森林教育を行い、たたら製鉄の講義を実施した。 ○研究者へ所蔵資料の情報提供を行った。 ○県立博物館の企画展示へ収蔵品を提供した。 「勾玉展」…霞17号墳出土勾玉
	・ 地域や団体と連携した学習機会の提供	A		

(3) 郷土芸能伝承のための支援

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①文化財保存活用事業補助金等により、文化財の保存・活用、郷土伝承芸能等の保存伝承と後継者の育成に努める。	・ 文化財保護活動への支援	B	B	○文化財保存活用事業補助金の補助を行った。 2件 霞のドンドさん、印賀樂樂福神社社叢

4 図書館・美術館の充実

(1) 町民が求める資料、情報の提供				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①町民の求める資料や情報の提供に努めるとともに、広く町民に図書館の魅力と活用方法を積極的にPRし、利用者の増加を図る。	・図書館だよりやCATVなど、あらゆる媒体を活用した情報発信	B	B	○入口の特集コーナーにおいて、話題性のある展示に取り組むことで、蔵書を知ってもらうと共に、読書意欲を高めることにつながった。 ○広報にちなみや図書館だよりでホームページの便利な機能などのPRをしたことにより問い合わせ件数が増加した。 ・参考業務 240件 ・予約リクエスト 1,593件 ・町民1人当たりの貸出冊数 4.3冊
	・参考業務（240件以上）、予約リクエストサービスの利用促進（1,800件以上）	B		
	・利用状況（実績）町民1人当たりの貸出冊数5.0冊	B		

(2) 子どもの読書活動・学習活動の支援				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①「日南町子どもの読書活動推進計画」に基づき、子どもが日常的に読書に親しむことができるよう環境整備等に努める。	・おはなし会やブックトークなど子どもが本に親しみ、読書に興味を持つ取り組み	B	B	○こども園と協力し、参観日に図書館から出向き親子読書の啓発活動をしたことにより、図書館や本に親しみを持ってもらうことができた。 ・秋の読書まつりを、こども園、小中学校、子育て支援センターと共催した。 ・おはなし会 図書館 13回、延76人 こども園 46回、延639人 子育て支援センター 12回、延98人
	・保護者に向けた子どもの読書活動の啓発（年3回以上）	B		
	・利用状況（児童書貸出冊数12,000冊以上）	A		

				放課後児童クラブ 12回、延118人 ・ボランティアのための読み聞かせ講座 13人 ・保護者に向けた啓発活動 4回 ・児童書貸出冊数 12,688冊
②子どもの学習活動の充実のため、学校図書館支援など、学校との連携・協力を進める。	・図書を利用した学習活動の支援（各学年学期ごとに1回以上）	A	A	・学習用図書の貸出（小学校12回、中学校4回） ・学級貸出の入替（小1回/月、中1回/学期）

（３）地域活性化、基幹産業の発展に役立つ資料・情報の提供

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①町の基幹産業である農林業分野をはじめ、地域振興に役立つ資料の一層の充実を図る。	・農林業、地域活性化コーナーの利用拡大	C	B	・役場担当課から助言をもらうなどして、町の実態に則した資料収集に努めた。 ○農林業に関する講座の開催に併せ、図書館内で関連図書コーナーを設置し、農林業分野の資料のPRをした。 ▲利用者のニーズをいかにしてつかむかが課題。
	・農林業分野や地域振興、第6次産業に関する新書籍の購入や資料収集の実施	B		
	・ポスター、チラシを作成し、広く配布するとともに、新聞、テレビ、ラジオ、ホームページやブログなどのあらゆる媒体を活用した情報発信	B		

（４）魅力ある展覧会の実施

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
-----	---------	---	---	-------------------

①多様な芸術文化に触れる機会を提供する。	・ 特色ある企画展と収蔵品を活用した魅力ある展覧会の開催（企画展と収蔵品展 年6回開催）	A	A	・ 企画展5本、共催2本、所蔵品展2本他、にちなみ文化展（日野郡交流展）、児童画展 ○ねがみくみこ展の来場者が過去最多（5,244人）開館時間を延長したナイトミュージアムを開催し、多様なアプローチに取り組んだ。年間入館者9,081人
②郷土ゆかりの作家や作品を紹介し、広く情報発信を行う。	・ 佐武林蔵、足羽俊夫など、郷土ゆかりの作家や作品の展示事業の開催	B	B	○所蔵品を活用して鳥取県立博物館との連携において対話型鑑賞を目的とした展示に取り組んだ。 ○各展覧会での解説、作家ワークショップ、技法体験などの普及事業に取り組んだ。 ○広報媒体をテレビとラジオCMに広げたことにより、効果的な集客へ繋がった。SNS を活用して情報発信に努めた。 ○郷土ゆかりの岡本暉生展の初開催 ○大人のためのクレパス画教室生徒作品展の開催 ○鳥取県ミュージアムネットワーク共同企画展作品18点の貸し出し。
	・ 絵画鑑賞をより深めるための展示説明や講演会、ワークショップなどの教育普及事業の実施	A		
	・ ポスター、チラシを作成し、広く配布するとともに、新聞、テレビ、ラジオ、ホームページやブログなどのあらゆる媒体を活用した情報発信	B		

（5）郷土の文化、芸術活動の活用と保存				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①貴重な町内の芸術品を収集・調査し、適切に管理するとともに、特色ある所蔵品の充実を図る。	・ 美術品の収集（購入、寄贈、寄託作品の受け入れ）	B	B	・ 美術品等選考評価委員会を開催し、令和4、5年度の現代作家のクレパス画16点収蔵。

②デジタルアーカイブ化したデータベースをホームページに掲載し、所蔵品情報を広く公開する。	・所蔵品のデータベース化	B	B	・所蔵する“現代作家のクレパス画”全作品のデジタル化を完了。 ▲公開方法の検討。
--	--------------	---	---	---

（６）美術教育の普及

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①美術館が小学生から高校生を対象とした鑑賞教育の場としての役割を果たすため、学校との連携体制づくりを進める。	・図工や美術の授業を活用した鑑賞教室の実施	A	A	・こども園、小・中学校と連携し、対話型鑑賞に取り組んだ。中学校では朝鑑賞をスタート（各学年１回）。こども園は全保育士が参加。鳥取県立博物館と連携して対話型鑑賞の企画展示に取り組み、祥、全中学生徒へ対話型鑑賞を実施。その他、社会教育委員、町民大学、こどものアトリエ等においても対話型鑑賞を19回（約200名）実施。 ○にちなん十色、子育て支援センター、倉吉博物館講座、東部児童館連絡協議会（鳥取市）などでクレパス技法などの絵画教室を実施。 ○こどものアトリエ 26回 延べ288人

５ 健康・体力づくり、スポーツ活動の推進

（１）健康、体力づくりの推進

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
① 町民が自らの健康や体力づくりに関心を持ち、スポーツに親しめる環境づくりを進める。	・ 各競技部による大会の開催と協力	A	B C	・ 町教育課が運営に携わる大会の開催 ・ 富田杯ソフトテニス大会 84名出場 ・ ジュニアソフトテニス選手権 95名出場 ・ 日南町駅伝競走大会 79名出場 ○町スポーツ協会競技部が独自に大会を開催し、町民がスポーツを楽しむ機会を創出した（卓球、ソフトテニス、バドミントン、ゴルフ、グラウンドゴルフ） ・ 体力運動能力調査 12名測定 ▲体力運動能力調査への参加者が年々減少している。参加者の増加に向けた取り組みが必要と考える。
	・ 体力運動能力調査の実施と運動能力の現状把握			
②関係機関と連携して、地域におけるスポーツ活動の活性化やスポーツ推進委員の活動の充実を図り、各種スポーツの普及と振興、体力づくりを推進する。	・ スポーツ推進委員によるニュースポーツ普及活動	A	A B	○まちづくり協議会、PTA、百歳体操グループ等から、スポーツ指導の依頼を受け、ニュースポーツの普及活動を行った。派遣人数、回数ともに前年度より大きく増加した。 ・ 新規のニュースポーツ勉強会、町外での研修会に参加し、研鑽に努めた。 ・ スポーツ推進委員活動実績 外部研修会 2回・4名参加（パラスポーツ等） 出張指導 24回（延べ64名出張） 町事業への開催協力（体力調査、駅伝大会） 委員勤続10年表彰 1名（鳥取県協議会表彰） ▲仕事などの理由により、出張指導や研修へ継続的に参加する委員が固定化している。参加しや
	・ スポーツ指導者の資質の向上に関する研修会等参加			

				すい機会の創出を検討したい。
--	--	--	--	----------------

(2) 各競技団体の活動強化支援				
目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①各種スポーツ団体の活動の活性化及び自主的運営の促進を図る。	・日南町スポーツ協会、日野郡スポーツ協会等との連携と各種大会参加者への支援	A	A	・日野郡民スポーツ大会 149名出場 ・四県四郡市総合体育大会 60名出場 ・県民スポーツレクリエーション祭 64名出場 ・日野郡スポーツ協会事務局（令和5～6年度）
	・日南町スポーツ少年団の育成と活動支援	A		
②日常的にスポーツ活動に親しむための団体育成に努める。	・各種スポーツ活動の取り組みの支援と活動の活性化	B	B	・活力ある文化団体等支援助成（スポーツ・運動団体の申請 6件） ・スポーツ大会等派遣費補助金ソフトテニス全国大会（選手2名、指導者1名） ○総合型地域スポーツクラブ「にちなんスポーツクラブ」への事業委託を開始。定期的な運動教室やイベントの開催が実施された。

(3) 社会体育施設の運営管理

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①社会体育施設の適正な管理運営と利便性の向上により、利用者の増加に努める。	・ 定期的な施設管理の実施 ・ 社会体育施設を利用しやすい施設となるように整備、補修等を実施	B	B	・ 設備、備品の故障に対し修繕を行った。 ・ 総合グラウンドの整地作業を職員が行った。 ▲グラウンド照明等、中長期計画を踏まえた設備の修繕や更新
②中学校の部活動や各種団体が利用しやすい施設となるように、利用調整や施設整備に努める。	・ 体育施設利用調整の実施	C	C	・ 定期利用調整会 10月、3月に実施 ▲オンライン予約システムの導入遅延

6 「社会に開かれた教育課程」実現に向けた学校教育との連携

（1）学校を核とした生涯学習の実践、学習成果の発表

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①学校を生涯学習の場として活用し、地域の人々と児童生徒との交流を図る。	・ 学校を活用した学習成果の発表の実施	C	C	▲小学校空き教室の活用について、具体的な取り組みに繋がられていない。
②各地域での生涯学習活動を地域学校協働活動として位置づけ、居住地域を越えた児童生徒の活動参加を促す。	・ 地域コーディネーターと連携し、地域人材を活用した教育活動の実施	B	B	○まなびや縁側が石見まちづくり協議会と共催し、石見地域外の児童生徒が共に活動できる事業を実施した。

7 人権教育の推進

(1) 人権に関する学習機会の充実

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①ふれあい人権講座や小地域懇談会、ふれあい文化祭等を開催し、人権意識の向上を図る。	・小地域懇談会等、地域と連携した人権啓発のための各種研修会等の開催	B	B	・ふれあい人権講座の開催（11回開催）、小地域懇談会（6月～3月の間）、ふれあい文化祭（10/21開催）。 ○小地域地域懇談会を全ての自治会で開催することができた。 ▲小地域地域懇談会の運営方法や会のあり方について検討する必要がある。 ▲ふれあい人権講座は、参加者が固定化してきている。
②一人ひとりがあらゆる人権問題について考える契機の提供に努める。	・様々な人権課題に関する情報提供や全町民に対する情報発信	B	B	・広報誌を利用して毎月、情報発信を行った。 ▲広報誌以外の情報発信について検討する必要がある。

(2) 人権・同和教育の推進

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
-----	---------	-----	-----	-------------------

①同和教育研究集会、同和問題職場研修会等を開催し、幅広い層への啓発に努め、人権尊重のまちづくりを進める。	・町人権・同和教育推進協議会の計画的な運営と各種事業の実施	B	B	・職場研修会を、9/26・10/3に4回開催（各日2回）し、延べ212人の参加があった。 ・同和教育研究集会を 11/25 に開催し、139 名の参加があった。
--	-------------------------------	---	---	---

（３）男女共同参画・女性活躍の推進				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①女性と男性がともに尊重しあい個性と能力を発揮できる環境づくりを進める。	・第５次日南町男女共同参画推進計画の策定	C	C	▲策定のための検討及び委員会を4回開催したが、完成に至っていない。